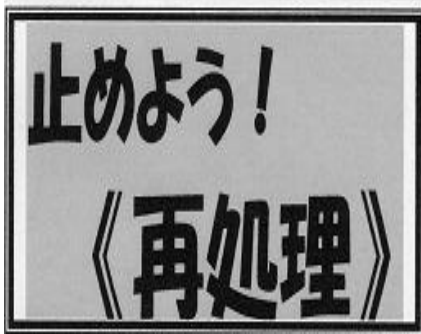


**三陸の海を放射能から守る  
岩手の会** (略称) **三陸の海・岩手の会**  
郵便振替 02240-5-102650  
ホームページ 再処理 / 岩手の環境/RI  
廃棄物(coocan.jp)

本紙は市民カンパで発行しています。  
購読したい方は事務局に連絡ください

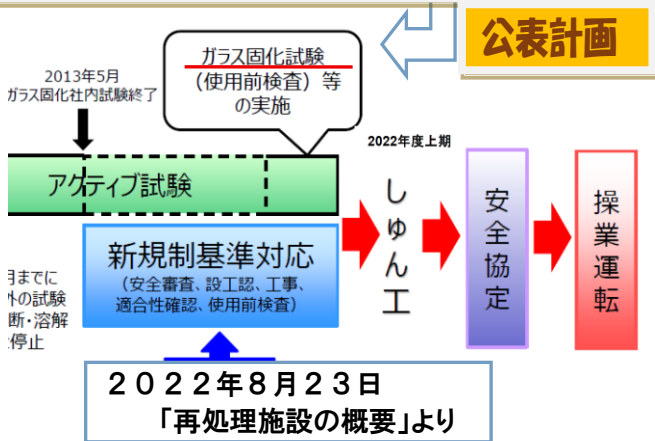


**<天恵の海>**

2026(令和 8年)  
3月16日  
第269  
編集事務局 S.Oshida  
TEL・FAX 019-623-1636

**核燃六ヶ所再処理工場は  
アクティブ試験(未終了)を評価せず  
「竣工」としようとしている**

**ガラス固化試験成功の後の竣工**



**六ヶ所工場 アクティブ試験年表**

2006.3	アクティブ試験始まる
2008.10	「ガラス固化」以外の試験終了
2011.3.	福島原発事故・大震災
2013.12	再処理規則第6条2七「ガラス溶融炉の性能の技術上の基準」が削除され「性能に関わる技術基準」に改訂された。
2014.1	新規基準審査開始
2017.2	原子炉等規制法第46条改正。「使用前検査」は、「国が行う」から、「事業者が行う」とされた。
2020.7	新規基準審査終了。設工認審査へ
2024.3	2007年以來16回目の竣工延期

原燃は、二〇〇六年三月にアクティブ試験を開始し、工程で発生する高レベル放射性廃液の「ガラス固化による安定化」を掲げて工場完成を目指してきました。

ところが、二〇一三年二月に「再処理規則」から「性能の技術上の基準」が全削除され、二〇一七年には「使用前検査」が国から事業者に変更になりました。「竣工」の条件が福島事故以前より大幅に緩和されました。これは、高レベル廃液が、特に不溶解残渣を加えると白金族元素が沈積し、「ガラス固化が出来ない」という難問と関連しています。「高レベル放射性廃液をガラス固化体に出る技術」を獲得することが「アクティブ(本番)試験」の大きな目的の一つです。何度挑戦しても成功しないため、規則や法律を変え、基本的な安全目標を曖昧にして、莫大な放射能を抱える超危険施設再処理工場の「竣工」は重大事故への道、国民を犠牲にするものであり、許されません。左図のように二〇二二年の原燃の計画ではアクティブ試験と新規基準審査が終了してからしゅん工になっていたのです。しかし二〇二五年一二月原燃社長はアクティブ試験(ガラス固化試験)を終了せずに竣工させようと方針転換を公表しました。

二〇一三年ガラス溶融炉のアクティブ第5ステップ試験の報告書が国に提出されていますが、いまだに評価されずにいます。高レベル廃液に特に不溶解残渣廃液を加えると白金族が沈積し排出管が詰まる。電気を短絡させ炉の熱が上から下へ伝わり、冷却が解凍されていません。「高レベル放射性廃液のガラス固化試験」の成功なしに竣工はありえません。しゅん工後に、現在貯蔵中の廃液227m<sup>3</sup>をガラス固化し減

**「超危険高レベル放射性廃液 貯槽」  
(東海再処理工場の 工事中の写真)**



廃液は絶えず崩壊熱を発生し、水素が発生する。冷却と掃気が途絶えると爆発の恐れがある。「人が近づき約20秒放射線を浴びると死に至る」という超危険な廃液。六ヶ所工場には227m<sup>3</sup>貯蔵中。

らすとのことですが、具体的な処理量は不明です。現在の原燃の技術と溶融炉の老朽化を見ても困難と思われる。

その後本格操業運転を行うという事ですが、なぜ国と原燃は無謀な運転を目指すのでしょうか。現在国が原燃案を審査中ですが、国民の安全のため厳重審査を求めます。

市民講演会 講師 永田文夫 当会世話人

# アクティブ試験の失敗を隠し竣工へと画策

～核保有に繋がらないの？ ILC（国際リニアコライダー）との関連は？～

当日資料あり。

QRコード



## 市民運動から見えてくるもの

主催：いわて生協くらぶ・クランボン&岩手有機農業研究会



### 黙っているとは

#### 重大事故への道

二月一五日永田文夫さんの学習講演会を上記のテーマで企画しました。盛岡仙北生協会議室は、五〇余名の参加者で賑わいました。（西和賀町、花巻市、雫石、矢巾町等の参加もあり）再処理工場の竣工をめぐる問題を年代を追って危険を明らかにし、ILCとの関連性も語られました。市民運動の果たしてきた経緯を絡めてまとめ、「黙っていることは重大事故への道」と永田さんは、警鐘をならしました。

#### 市民運動への期待の声

主催は、いわて生協組合員活動チームくらぶ・クランボン、岩手有機農業研究会。四名のスタッフのうち二名は初めての経験、核燃問題への取り組みも初めてで、私としては、そうした初心者マーク？の市民運動に期待したいと思えました。お誘いしたゲストもそのような方が加わると、「正直、まるで知らないことが沢山あつて驚きました。子供や孫たちの未来を思いながら聞いていました。」とか、会場からは、「ILCは良いものだと思うて

いたが、危険をはらんだものだとはいえ」といった行動変容につながる感想も出ました。RMC問題等で果たした市民運動のたまめ努力の成果に参加者からの驚きや、期待の声があまりました。

#### 平和揺るぐ政治の不安

突然の高市ショータイム選挙で、今後の憲法改正、非核三原則見直し等、国民の平和が守られない政治への不安が募る中、永田さんの「市民運動から見えてくるもの」という言葉と、「国を変えるのは、政治ばかりではない、市民運動が大切」というジャーナリスト伊藤千尋さんの言葉とがシンクロし、私は市民運動の力を感しました。二〇〇七年一月の寒空の夕暮れの下、「再処理工は放射能を海に空に流さないで」との全国から約一〇万筆の署名を首相官邸に運んだ時の重さと熱気を思い出しました。講演後、生協の喫茶コーナーで、講演会の感想に花を咲かせる次世代の市民運動グループの皆さんの笑顔に励まされました。

（島津勢津子）

## 12月8日 青森県東方沖大地震。

六ヶ所再処理工場は鉄塔や配管だらけで地震に弱い！ 幸い「震度5弱」でしたが、およそ50km離れた八戸市は「震度6強」で、NTTビル屋上の高さ70mの鉄塔が損傷し48世帯が避難しました。



厳冬の盛岡金曜デモ 14年目  
原発も再処理もやめよう！  
2月6日（金）投票日直前のデモ。

ヒヤリ！

## 核燃再処理工場の危険な高レベル廃液。これは野党も与党もない重大問題です

### 地球的危機をもたらす「廃液問題」

六ヶ所再処理工場の敷地に、高レベル放射性廃液という超危険な放射性廃液が貯蔵されています。古びた施設では、破損し環境に漏れ出す恐れがあります。多数議席を獲得した高市政権は万全の事故対策を行い国民を守らねばなりません。

#### 国会は核施設の安全の討議の場に

脱原発・再処理問題国会議員連事務局長の山崎誠氏は善戦し敗れました。「核燃・原発反対政策実現市民ネットワーク」は、質問主意書や委員会質疑で政府に回答を求めました。国会は早急に核施設の安全の徹底討議の場として再建されなければなりません。